

ひかりのこ

年度末園便り

聖ミカエル幼稚園

2015年3月13日発行

皆様、お子さんのご進級、ご卒園、おめでとうございます。

最近は何のせいか、一年があっという間に過ぎていくのですが、特にこの一年は新制度の準備に追われながら慌ただしく時間が過ぎていった、という感じです。園長として外に出ることも多く、子ども達と一緒に過ごせないときもありました。

でも、朝・帰りに玄関でご挨拶をしたり、午後からの園庭での外遊びの時に、お手々をつないで一緒に遊んだり、子ども達と触れ合う機会もありました。その中で、「いつの間にか背が伸びたなあ。」「お話が上手になったなあ。」「お友達と上手に遊べるようになったなあ。」と子ども達の成長を感じるのがよくありました。

来年度は、「施設給付型幼稚園」として聖ミカエル幼稚園は動き出します。ご家庭やお子さんにとって変わるの、保育料の徴収の仕方、預かり保育の金額が低くなること、幼稚園の施設がより良くなる、ということです。施設の改善はまだこれから考えていきますが、外の遊具の取り換えや、室内の電灯をLEDに変えていくことなどを検討中です。ただ、一番大切なのは保育の中身です。先生たちはいつも心をこめて保育をしていますし、とても真面目で努力家ですが、これからもより努力して、保育の技術を向上させるために、学びを大切にしていきたいと思います。

保護者の皆様には今年度も本当にお世話になりました。いつも元気で前向きなお父さん、お母さんにたくさん支えていただきました。2月23日のお礼拝の後にはゴスペルサークルのお母さん方が、子ども達にお歌を聞かせてくださいました。かわいい子ども達と一緒に歌う場面では、感極まって歌いながら泣いていらっしゃるお母さん方がたくさんいて、私たち職員ももらい泣きしてしまいました。子どもの一生懸命歌う姿には、本当に人の心を動かす力があります。また、25日には、絵本サークルのお母さん方が、ブラックライトを使って、光る「はらぺこあおむし」のペープサートを見せてくださいました。今までにない不思議な美しいペープサートで、子ども達も大喜びでした。いつもお話しすることですが、聖ミカエル幼稚園の子ども達は、たくさんのお父さん、お母さんに大切にされながら大きくなります。本当に幸せなことです。新制度に移行しても、この良い雰囲気はずっと続いていくことを願っています。

年長さんの保護者の皆様、小学校に行っても子育ては続きます。ぜひ、これからも親同士のお友達をたくさん作ってPTA活動にも積極的に参加してください。子どものことに関われる時期は、ほんの一瞬です。子育てを楽しんでくださいね。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」

(マタイによる福音書22：39)

私がミカエル幼稚園に来てもうすぐ1年になります。この間、こどもたちに、イエス様の愛が十分に伝えられたらと、いま自分を省みています。冒頭に紹介した聖書の言葉がもっとも大切だと思うからです。

しかし、「愛」ほど使い方が難しい言葉ありません。欧米の指導者のスピーチには、愛とか勇気、謙遜など、人間の基本に関わる言葉が多く用いられます。反対に日本では、総理大臣がうかつに「友愛」などというと、いきなり変人扱いされてしまいます。この違いは何でしょうか。人間にとってそのような言葉が必要なことは間違いありません。実際には恥ずかしさもあって口から出ないのですが、なくてはならない言葉です。そもそも、こどもたちが育って卒園していくのは、保護者の皆さんの愛があったからです。反対にこどもたちが親に対して持っている愛に気づかされ、励まされることもあったのではないのでしょうか。

私が卒業した大学は、その頃は全学生が千人ほどの小さなものでした。チャペルで行われた卒業礼拝で当時の大学のチャプレンは言いました。「この大学は小さく、社会に出て同窓生は少ないし、学閥もない。頼れるものはあまりない。だから君たちが生きる柱とすべきなのは、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛する』という聖書の一句なのだ」。聖人君子ではない私たちにそんなことができるかと、悲観する必要はありません。問題は、この言葉にこだわり続けることなのです。いま私も同じ言葉を卒園するこどもたちに贈りたいと思います。幼稚園で神様の愛、ご両親の愛を知ったこどもたちですから、この愛の力によって人生を切り開いていけると信じています。そして、ミカエル幼稚園をいつでも帰って来れる「こころの故郷」にして欲しいと願っています。応援しています。

チャプレン コルベ 司祭 下澤 昌